HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Asian Research Trends : New Seriesの紹介
Author(s)	小松, 久男
Citation	日本中央アジア学会報, 17, 55-57
Issue Date	2021-07-31
DOI	10.14943/jacas.17.55
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/89133
Type	article
File Information	JB017_015komatsu.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

*Asian Research Trends — New Series*の紹介

小松　久男

この雑誌は、公益財団法人東洋文庫が刊行している英文誌の一つである。創刊の趣旨は、アジア諸国・諸地域ではじつに多彩な人文学研究が行われている一方で、言語の障壁や刊行物の流通・アクセスの問題などにより、その成果が広く世界の学界に共有されていない現状を少しでも改善することにある。そこで、東洋文庫内に設けられた編集委員会がアジア各地の研究者に依頼して、専門とする研究テーマについて最近の研究動向をまとめてもらう形で、毎年1号のペースで刊行を継続している。その特徴は、本文に加えて詳細な文献目録を掲載することにあり、各文献のタイトルには原文の表記に英訳が付されている。近年アジア諸国においても研究情報のデジタル化は急速に進んでおり、検索・閲覧は容易になりつつあるが、個別のテーマに関する研究動向を把握することはまだ容易ではなく、その意味で本誌には独自の存在意義があると考えられる。

このたび本誌は15号を刊行するにいたった。ふりかえってみると、ほぼ毎号のように中央アジア関係の研究動向を掲載してきたことがわかる。執筆者の中には中央アジア現地の研究者も少なくない。ただ、残念ながら本誌の存在は内外ともにあまり知られていないようである。そこで、この機会にこれまでの中央アジア関係の動向論文を紹介することにしたい。なお、これらはすべて東洋文庫リポジトリのサイトで閲覧が可能である。

https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/

No.1 (2006):
Ablet KAMALOV
Uyghur Studies in Central Asia: A Historical Review, pp.3-32.

No.3 (2008):
Timur DADABAEV
Introduction to Survey Research in Post-soviet Central Asia, pp.45-70.

No.4 (2009):
Güljanat KURMANGALIYEVA ERCILASUN
Research Trends in Kyrgyz History (1991–2009), pp. 25-44.
MATSUI Dai
Recent Situation and Research Trends of Old Uigur Studies, pp.45-70.

No.5 (2010):
Surayyo U. KARIMOVA
The Study of Islamic Manuscripts in Uzbekistan: Results and Tasks, pp.35-58.
Razia SULTANOVA
Sacred Voices of the Past: Russian and Soviet Research into Kyrgyz Epic Manas, pp.59-80.

No.6 (2011):
HAYASHI Toshio
Trends in Central Eurasian Archeology since the Late 1980s, pp.1-22.

No.7 (2012):
ARAKAWA Masaharu
Chinese Research on Sources Excavated from Turfan Archeological Sites, pp. 19-40.

No.8 (2013):
KATAYAMA Akio
Recent Trends in the Study of the “Ōtani Expeditions”, pp.23-41.

No.9 (2014):
Zaynabidin ABDIRASHIDOV
Study of Jadidism in Independent Uzbekistan, pp.47-73.

No.10 (2015):
Aftandil ERKINOV and Dilnavoz YUSUPOVA
The Study of Uzbek Classical Literature in Uzbekistan (1924-2014), pp.43-58.

No.11 (2016):
CHANG Eunjeong
Research Trend in Korea on the Silk Road in the Fields of Art History and Archaeology, pp.1-27.

No.13 (2018):
YOSHIDA Yutaka
On the Sogdian Version of the *Lengqie Shiziji* and Related Problems, pp.1-30.

No.14 (2019):
Zulkhumor MIRZAEVA
The Study of 20th Century Uzbek Literature in Uzbekistan (1940-2018), pp.1-30.
NODA Jin
Development of Central Eurasian Studies in Japan during 2000-2015, pp.31-53.
YAKUBO Noriyoshi
Japanese Research on Chinese Muslims in Modern and Contemporary History: A Review of the Last Twenty Years and Future Prospects for the Field, pp.55-91.

No.15 (2020):
Güljanat KURMANGALIYEVA ERCILASUN
Central Asian Studies in Turkey since 2001, pp.27-89.

なお、この最新号にはトルコにおける中央アジア研究の動向を概観する論文が掲載されている。著者も指摘するように、過去20余年間の研究成果は博士・修士論文も含めて膨大な数に上り、トルコで活動する中央アジア出身の研究者も少なくないことがわかる。思えば今から80年ほど前、中央アジア史研究で名高いトガン（1890−1970）は、大著『現代のトルキスタンとその近代史』初版のまえがき（1940年）にこう書いていた。

> 来年初め私はもう50歳になるが、私の後をつぐ若い歴史家はどこにいるのか。［オスマン史など］西テュルク史を学ぶ学生は幸いにして多いが、この中央アジアのテュルク史を学ぶ学生はどこにいるのか。いったい誰がわれらの祖地の歴史を研究していってくれるのか。本書を世に問うにあたって述べる最後の言葉はこれである。

このようなトガンの言葉と現代トルコの研究動向とを比べてみると、まさに隔世の感がある。

なお、トルコの学術論文の検索・閲覧には下記のサイトが有用である。
https://dergipark.org.tr/

（東京大学名誉教授、公益財団法人東洋文庫）